

国語科（言語文化）学習指導案

1 履修単位数 3単位

2 実施日時 令和7年12月17日（水） 第4時限

3 学 級

4 使用教科書 精選言語文化（第一学習社）

5 単 元 名

三首の春の歌の違いを考えよう。（『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』）

6 単元設定の理由

(1) 生徒観

(2) 教材観

『万葉集』は現存最古の和歌集であり、前後3世紀にわたる時代の歌が集められ、作者層も天皇・皇族から広く庶民にまで及び、東歌や防人歌などがある。江戸時代の国学者賀茂真淵は、『万葉集』の歌風を「ますらをぶり」と評した。『万葉集』の歌が持つ素直でおらかな読みぶりを生徒にも感じさせたい。

『古今和歌集』は最初の勅撰和歌集であり、万葉調の古い歌と撰者たちの新しい歌が集められ、日本文学における和歌の地位向上にも大きく貢献した。掛詞や縁語、見立てなどの修辞法を駆使した歌が多く、その表現世界は以後の和歌の伝統に大きな影響を与え、現代の感性にも受け継がれている。繊細な季節感や意味の重なり等による優美な表現、心情を読み取ることで、日本の美意識の基本を描いた世界を読み味わわせたい。

『新古今和歌集』は、鎌倉時代、失われた王朝文化への憧憬をエネルギーとして、貴族たちが現実世界を離れて構築した美の世界が描かれている。余情美や暗喩、心情などを読み取り、中世の美意識を読み味わわせたい。

(3) 指導観

和歌は古来より日本文学の中心的な役割を果たしてきた。特に、『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』それぞれの和歌は句切れ・韻律、修辞等の違いがわかりやすく、時代別の歌風の特徴もつかませやすいと思われる。その中で、有名歌人が詠んだ春の歌を取り上げて、修辞や心情表現の違いを見つけさせながら、三歌集の歌風の違いを理解することにつなげたいと考えた。

7 単元の目標

(1) 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。〔知識及び技能〕(1)オ

(2) 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

8 本単元における言語活動

三首の春の歌を読み比べ、その歌風について話し合う。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ウ)

9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。((1)オ)	① 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(B(1)エ)	① 他の作品などとの関係を踏まえ、それぞれの歌の修辞や心情などを比較することで、歌風の違いなどを的確に捉え、自らの学習を調整しようとしている。

10 指導と評価の計画（全5時間）

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第1次 (1時間)	○三歌集それぞれの特色や和歌の修辞を理解する。 ・三歌集を大まかに比較する。 ・枕詞・序詞・掛詞・縁語・本歌取り・体言止めとその効果について知る。	〔知識・技能〕① 「記述の確認」
第2次 (3時間)	○三歌集の歌を解釈し、鑑賞する。 ・歌を句切れ等に注意して正確に音読する。 ・その歌の語句の意味や修辞を理解し、作者の描く情景や心情を読み取る。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① 「行動の観察」
第3次 (1時間)	○春の歌三首を読み、それぞれの違いについて理解する。 ・三首それぞれの修辞や情景、作者の心情、歌風の違いなどについて、班で協議し発表する。 (本時1/1)	〔思考・判断・表現〕① 「行動の分析」

11 本時の目標（5/5時）

春の歌三首の違いについて、各歌集の歌風と結びつけて理解することができる。

12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 10分	○本時の目標を確認する。 ○三首の範読を聞き、音読する。 ○三首の歌人や歌意などを振り返る。	・「春の歌三首の違いを考えよう」という課題について話し合いを行うことを示す。 ・語句や句切れに注意しながら正確に音読させる。 ・プリントを見ながら、前時までの授業を想起させる。		

展開 35分	○三首の違いについて個人で考えワークシートに書く。 ○個人で考えたことをもとに、班で話し合い、まとめて発表する。	・修辞や情景等を踏まえ、考えさせる。 ・生徒の様子をみながら、話し合いの途中で、考える手がかかりとなるヒントカードを配付する。 ・班によって配付するヒントカードの内容は変更し、多様な意見が出ることを促す。 ・机間指導により、ヒントカードに対する補助発問を示す。 ・MetaMoJi Classroom を使用し、グループで意見をまとめ、発表させる。 ・発表で出た意見をまとめる。	〔思考・判断・表現〕①	「行動の分析」 <u>話し合い</u>
まとめ 5分	○三首に表れた三歌集の歌風の特徴をまとめる。	・三首の違いが、三歌集の特色とどのようにつながるかを考えさせる。		

13 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	三首の違いを三歌集の歌風と結びつけて理解し、自分のものの見方や考え方を深めようとしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	着目する観点をヒントカードとして配付することによって、三首の違いを考えやすくする。